

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書委員会 ビブリア編集部
平成9年2月25日

福島高専図書館報 第82号

巻 頭 言

正月早々貸しビデオ屋へ出かけた。暇をつぶすには、二本も借りれば十分だろうと思いながら店に入ると、「正月に限り全商品半額」と大書した貼り紙が目についた。途端に私は活気づいた。陳列棚の間を詮索探査すること数十分、店を出たときには、何と私は、六本のテープを手にしていたのである。心の隅には、「半額」の文字に釣られて、六本も借りてしまったはしたなさを恥じる気持ちも若干無いわけではなかったのである。

さて、帰宅するや、エディー・マーフィー扮するずっこけ刑事に声援を贈り、スティーブン・セガールの活躍に手に汗握り、果ては金髪の女スパイの仄かな色香に垂涎のためいきを漏らし、私はすっかり堪能した。そして----嗚呼----疲れた。頭の中には攪拌されたチャンコ鍋さながらに、六本の映画の切れ切れの場面がごちゃ混ぜになって去来し、目は霞みこめかみには微かな疼きさえも残っているではないか。不覚にも私は、この時になって、借りてきた六本がすべてアメリカ映画であることに気がついた。私は日本人である。一本ぐらい日本映画に投資すべきではなかったかと釈然としない思いに駆られたわけである。

ユネスコ文化統計年鑑には、ヨーロッパで、アメリカからの映画輸入量が60%

~70%に及ぶ国が二十カ国も挙げられている。こうした娯楽文化情報の侵略に対して、欧州連合(EU)は、アメリカからの輸入番組を50%に抑えようという動きもあるらしい。特にフランスは、自国の映画輸出額2億5千万\$に対して、アメリカからの輸入総額が38億\$にもなるのに業を煮やして、テレビ番組の50%は自国制作とすることを強く主張しているそうである。それに引き換え我が日本国は----。あの店の品も、七割は洋画で占められていた。

今や日本人は、怒濤のように押し寄せる英語文化圏からの情報洪水に翻弄されて、自国文化の存在意義さえ忘れかけている。その上、テレビを点ければ、人を小馬鹿にしたような英会話学校の宣伝画像が流れ、巷には片仮名言葉が氾濫し、国語の乱れも省みられない危機的状況にある。だからこそ私達は、日本人としての矜持を確認し、自国文化に改めて思いを致す必要があるのではないだろうか。

それにはどうしたらよいか? 簡単である。古典の世界に沈潜することだ。古典は図書館にある。学生諸君、今こそ図書館に来たまえ!

《一般教科教官 中村 好一》

目次	巻頭言 中村 好一 1	卒業生による	
	感想文コンクール		「私の推す一冊」 4
	最優秀作品(低学年の部) 2	図書館便り 14
	最優秀作品(高学年の部) 3	お知らせ 15

感想文コンクール 最優秀作品(低学年の部)

「春琴抄」(谷崎潤一郎著)を読んで

コミュニケーション情報学科3年 大島 優佳

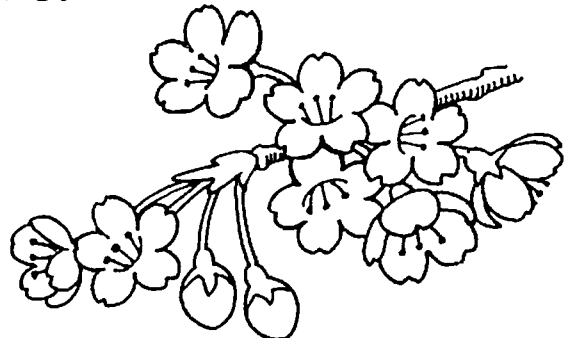
たぐい稀なる美貌と英知、音曲の才能を持ち合わせた春琴。裕福な家に生まれ、父母の寵愛を一身に受けて育つが、九歳の時に光を失う。それより後は舞踊を断ち、音楽の道に励むこととなる。盲目の彼女の世話をしたのが丁稚奉公をしていた佐助で、春琴を神のごとく敬い、崇拝していた。佐助は春琴よりも四歳年上で、奉公に上ったのは十三歳の時であるが、そのときには彼女はもう失明していた。なにぶん少年少女と言うにふさわしい年であったから恋愛というよりも、佐助は憧憬の念を春琴に抱いていたのであろう。佐助は深夜毎日押し入れの中で三味線を見よう見まねで練習する。暗黒に閉ざされた中で三弦の稽古に励むことは、春琴と同じ境遇を味わうことであり、彼は無上の歓びを感じることができた。やがて春琴から三味線を教わることになり主従と師弟という二重の間柄になるのだが、彼女の稽古は過酷なものだった。もとのからの驕慢な性格に盲目特有の残酷さが加わって嗜虐性は増し峻烈を極めた。それにもかかわらず佐助は一途に春琴に仕え、それらを全然苦役と思わなかった。しかし春琴のその性格が災いとなり惨劇は引き起こされ、物語は第二部へと移行する。

真夜中、何者かによって高雅で端麗な彼女の顔は傷つけられてしまう。美貌は見る影もなく破壊され、かわりにやけどの跡の残った醜貌があらわれた。人に見られることをおそれた春琴に、佐助は顔を二度と見ないと約束し、自分の眼を針で刺してしまふ。失明したことを伝えたとき、春琴は「佐助、それはほんとうか」と一言を發し黙ってしまうが、佐助は後にこの時の心情を「此の世に生まれてから後にも先にも此の沈黙の数分間程楽しい時を生きることがなかった」と語っている。少年の時分に押し入れの暗黒世界で味わったものとは比べようもない、これこそが至福の時だった。佐助はこうして彼女を自分の胸に刻み込み、驕慢な彼女を永劫不変のものとした。彼がこの世を去ったのは春琴の死後、二十一年も経ってからのことであったが、佐助の中の春琴は久遠の美に縁取られていたことであろう。

「春琴抄」を一通り読み終え、少し時間をおいて冷静になると、なぜか心が弾んできた。読過直後は谷崎潤一郎がつくり出す一種妖艶な世界から取り残されたという思いが多分にあった。彼の作品を読むのは実はこの「春琴抄」が初めてで、しかも卒読というにふさわしい読み方だったので、最初は私の読書経験不足のせいだと思っていた。しかし、それでは何か割り切れないような物足りなさを感じた。一般に言われるように、私も人物心理の面が不服だ。作品の心理駆け引きに期待をして読む。しかし、実際には心理描写に比重はかけられず、作者はこういった私の希望に反発するかのように物語を進めてしまう。私はそれでも諦めきれず、いつかは人物の感情が克明に描出されるだろうと期待をかける。その半ば懇願といえる思いは募るばかりで、本から目が離せなかった。結局そのまま最後に至ってしまった。

著者は故意に心理描写を避けた風があり、私は一方的に、あんなに切望したのに裏切られたという不満を作者にぶつけた。一読者の分際で自分の欲望どおりにならないからと文句を言うなんて身勝手だとは思ったが、だからといってそのもやもやとした思いを他に向けることもできなかったのだ。しかしある時、心が満たされないことさえもが心地よく、鮮やかに思えてき、前述したように、ときめきに似た感情がふつふつとわいてきた。これはなぜなのか今でもよく分からない。別にそれは作者・谷崎潤一郎の狙いでも何でもない。心理、性格の描写、場面や会話に巧緻を競うことが何の足しになるのか、と彼は述べており、本格的な書き方を億劫に思い、叙景や会話のやりとりなどに気を配るのは徒労のように感じるという。

心理描写を望んでいた私と、嫌悪していた著者。私の主観的側面の感情転換はいわば偶然の産物で、私が彼の作品を気に入った理由は、はたから見れば見当違いであるのだが、彼の文学の甘美さに誘われ、私は読後の法悦を求めて、谷崎潤一郎の次なる作品を探している。



感想文コンクール 最優秀作品(高学年の部)

「エイズと闘った少年の記録」を読んで

電気工学科 4年 高橋 亜維

「血友病」、「非加熱製剤」などという言葉は、ニュースをよく見る人であれば、ほぼ毎日耳にするであろう。体に良いと思いき喜んで受けていた治療が、自分の体を蝕んでいたのだから被害者達の怒りは、大変なものであろう。しかし、私は自分とはあまり関係のない病気だと思ってニュースを見てきた。家族に血友病患者がいるわけでも、友達の中に血友病患者がいるわけでもないからであろう。しかし今回、この本を読むことにより私の、血友病、そしてエイズに関する見方は変えられ、認識は強められたのである。

ライアンは生まれた時から、血友病という重い病気を背負い、またそれを治す薬によって十三歳の時にエイズというもっと重い荷を負った。もし私がエイズになり、それを医者から告知されたとしたら、確実に生きる気力をなくしてしまうことだろう。エイズ。それは死と向かい合わなくてはならない病気なのだから…。しかしライアンは、決して生きる気力をなくしたり、家族につらくあたったりすることはなかった。「ぼくは病気には、慣れているんだ。たったもう一つの病気にかかっただけだよ。」と、明るい声で述べたのである。彼は、エイズのライアン、病気のライアンとしてではなく、普通の、元気な十三歳として生きる道を選んだのである。

彼の敵はエイズだけではなかった。周りの人々の差別や、偏見とも関わらなければならなかったのである。先生達は、ライアンにやっかい者のレッテルをはり、ライアンの母・ビニーは、母親の資格がないと言われて、どこへ行っても歓迎されなかった。レストランに入れば、みんな立ち上がって、ライアンの側から離れていった。だれも、ライアンと握手しようとはしなかった。初め、私はひどい人もいるものだと非常に腹立たしく思った。しかし、落ちついて、自分はライアンと握手したのだろうか、もし、ライアンの使ったコップを差し出されて水を飲む様に勧められたら、一瞬のためらいもなく握手をしたり、水を飲んだりできただろうかと考えてみる時、私は、残念ながらはっきりと「はい」とは返事できないのである。エイズが握手や、同じ食器を

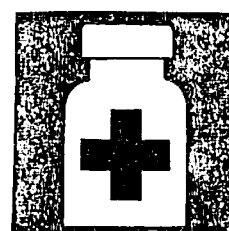
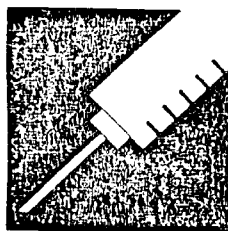
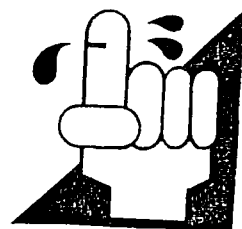
使うことで移らないことは知っていても、自分を絶対にエイズから守ろうとする非常に強い自己防衛の気持ちから、エイズを自分から遠くに押しやっているのである。それと同時に、この行為はエイズ患者を、いやエイズ患者の心を遠ざけてしまっているのである。

しかし、ライアンはやさしい母、そして妹と共に立派にエイズと、そして偏見と闘い続けた。母の口ぐせだった、「あきらめちゃダメよ。自分に誇りを持ちなさい。自分がみじめだなんて思っちゃダメ。」という言葉が耳に響かせて…。

自分の死を意識するという事以上に、恐ろしいことはない。ライアンは、その意識の中で、死の恐怖、孤独、差別と立ち向かい続けたのである。彼はそのために、想像を絶する努力をしてきた。このように強く生きられたのは、家族の支えがあったのはもちろんのことである。けれども何よりも、ライアン自身の、生きぬこうとする意志の強さが「死」や「孤独」と闘う原動力となったのであろう。

病気と闘うこと。それは、ややもすると暗くなりがちなイメージを与える。しかし、その様な極限状態の中で彼はめっぽう明るいのである。そのような彼の姿勢に、私達は強い感動をおぼえるのではないだろうか。

エイズをよく知らない人や誤解している人は、まだまだ多く、ライアンのいなくなった今も偏見は続いている。しかし、私達は本当にエイズに背を向けていてよいのだろうか。感染している人は一生懸命エイズと闘っているのである。その人達の努力を認め、闘うのを助けてあげること。この病気になっている人と、一緒に学んだり、働いたり、遊んだりすること。これがその人の苦しみをやわらげることになるのではないだろうか。



卒業生による 「私の推す一冊」

機械工学科

1 番 阿部 和人

「週刊スピリッツ」 小学館
吉田戦車 ぶりぶり県が最高!

2 番 安藤 一人

「夕食ばんざい」
一人暮らしの友達、難しそーでけっこうかんたんに出来る。リカちゃんがやさしくおしえてくれる。

4 番 小野 崇
「DART COOL」

オフロードバイクの魅力が満載。スケボやスノボとは違った迫力のあるAIRは見もの。

5 番 折笠 広光

「パチンコ攻略マガジン」
パチンコの知識はかんbeciになる。

6 番 片寄 大輔

「愛と勇気と希望の物語」 望 勇希著
「愛と勇気と希望の物語」図書室入って奥の本棚の一番右下に2冊しかない『幻の本』。頭文字が…。

7 番 貴志 嘉友

「5番目のサリー」 ダニエル・キース著
多重人格のお話を読んであなたも新しい人格を作って記憶を失おう!

11 番 佐々木 健至

「『超』勉強法」
クラスメイトのNちゃんに借りた本。この本を読んだNちゃんの成績がUPしたかはさだかではない…。

12 番 佐藤 慎児

「風のシルフィード」 本島幸久
週刊少年マガジンに連載された競馬もの。シルフィードは生まれながらにして浅屈腱炎という重症をおっていたが人間の愛情と持前の闘志で活躍していく。そのシルフィードの一生を描く物語。

14 番 庄山 真吾

「毒虫小僧」
いじめられっこが毒虫になってしまう不条理な物語。某K虫がモデルとのおわさも。かなりレアなのでプレミア必至。

15 番 助川 純

「レッドオクトーバーを追い」
とにかくいい。映画を観たなんていう人も、小説ではちがう話になっているからぜひ読んでみて。

16 番 鈴木 隆洋

「人間交差点」
この本は、裏と表のある人間の社会を実にリアルに表現していると思う。読むべし。

17 番 須藤 昭夫

「4P田中君」
モザイクなしのノーカット。必見!!

18 番 須藤 秀哉

「いいひと。」 高橋 しん著 小学館
スピリッツにおいて連載中。

19 番 高萩 光央

「The Mogul Ski」 角階 優人著
元全日本ナショナルチームコーチ角階優人氏本人から頂いた本。モーグルでのターンからエアーまでこれ1冊で完璧。先着1名様にしあげます。

20 番 高橋 和昭

「こころ」 夏目 漱石著
文章は難しいが個性的なストーリーの小説。

21 番 高原 住吉

「ガンビズム フォレスト・ガンプの生きる知恵」
ビデオで「フォレスト・ガンプ」を見てから読むと、さらにたのしめると思う。10分ぐらいで読みおわる「名言集」。

22 番 滝内 宗博

「エコエコアザラク」 古賀 新一著
エコエコザメラク…。(編集部 ???)

23 番 田辺 和也

「JISにもとづく機会設計図便覧」
理工学社
5年間、とてもお世話になりました。

24番 中川 淳

「しぐさでわかる性格診断」

雄鷄社 山辺 徹

この本があれば癖などに隠された意味を知り、相手の心を正しくつかむことができる。人間関係にも自信が出てくるだろう。(8割ぐらいは当たっている。)

25番 長沼 聡

「Rod and Reel」

ブラックバス釣りに興味のある人はぜひ読んでもらいたい一冊。これさえ買えばあなたもバサーだ!!

27番 箱崎 忍

「長いおわかれ」

レイモンド・チャンドラーの作品です。

28番 長谷川 健司

「けいりんマガジン」

特別競輪、記念、ふるさとダービー普通開催、全ての情報盛りだくさん。一流選手の素顔、新人選手情報やマコウスports等の企画も充実しており、これを読んであなたも伏見俊明(75期)のファンに。

29番 深澤 隆

「The Mogul Ski」 角皆 優人著
コブの愛し方、愛され方。

30番 本田 智章

「ありゃ馬こりゃ馬」 田原成貴・土田世紀

これを読めば競馬がますます楽しくなること間違いなし。

31番 増子 栄一

「牌の音ストーリー」

麻雀が好きな人は必ず読んでもらいたい。今までにもっていた麻雀に対する考えがかなり変わります。

32番 松崎 浩範

イチ押しの本は特になし。書店を歩いていて目についた本や気になった本を読んでみるのがよいと思う。

34番 宮澤 一成

「ラグビーマガジン」 ベースボールマガジン社

ラグーマンやラグビーに興味のある人に、ぜひ読んでもらいたい一冊。

35番 宗像 俊明

「高専の数学」

数学の問題がパズル感覚で簡単にとけ、とても数学が好きになる。ちなみに俺はそんな事はなかった。いろいろな教科で役に立つのでやっつけ。

36番 百貫 修作

「亀虫」 徳間書店

ある専門学校の教師がみんなにいじめられ、ついには亀虫になって臭気を漂わせるというマニアックな一冊。ノンフィクションという説も。とりあえず見つけたら即買い。とかいっとく。

37番 森 俊介

「メカライフ」 日本機会学会

日本機械学会に入会していないともらえない貴重な本です。今年からは学会誌とメカライフが合体してしまいましたが最新の話載ったおもしろい本です。

38番 柳田 導彦

「貴方には買えないもの名鑑」

「こんなものがあつたらいいな」的なものが著者の頭脳から湧き出す。熱血電子レンジ「気合い」や万華鏡コンタクトレンズ「万コン」などいろいろある。でも欲しいものがあったら買えないよ。

39番 横沢 直哉

「若いビジネスマンに贈る手紙」

学校を出て就職してから、社会でどのように行動すべきか、などの考え方が手紙形式で書いてある本です。たいへんためになる本です。

40番 吉田 尚弘

「脳内革命」

革命を起こしたい人におすすめ!

41番 吉田昌彦

「SCREEN」

洋画は本当におもしろい。洋画ファンは読むしかない。



42番 エイジャン

「TIME」 ジョン・マコム

「ASIA WEEK」 アン・M・クリッ

英語が書いてある雑誌はもっとおいてほしいです。TIMEとASIA WEEKという雑誌をよんだら世界のニュースがわかって勉強になります。

43番 ノルシャムスル

「ASIA WEEK」 Asia Week Limited

世界とアジアの現代的なニュースが書かれてる雑誌ですから、日本の国際社会として本当に良い雑誌だと思います。

電気工学科

1番 飯高 健治

「エルマーの冒険」

私はこれで3年間同じ感想文を出しました。

2番 氏家 和行

「銀河英雄伝説1～10」 田中 芳樹著

すでに読んだ人もいると思うが、とにかく面白い。ただそれだけ。(今、友達から借りて読んでいる途中です。)

3番 大塚 康夫

「シャーロック・ホームズの冒険」コナン・ドイル著 延原 謙訳 新潮社

ホームズの物語の第一短編集。一度読んでみて下さい。

4番 大平 一仁

「いいひと。」 高橋 しん著 小学館

とってもいい本です。これを読んでいい人になろう。

5番 大平 慎一

「HOOP」 日本文化出版

バスケットボールファンなら必読本。これさえ読めばNBAの最新情報を知ることができるぞ。

6番 大和田 清一

「ダービーニュース 1馬」 中光印刷

世間には理不尽なお金儲けの本が数多くありますが、この「1馬」は、一昨年のエリザベスの110倍をはじめ、昨年のスワンSの60倍など、確かなお金儲けの方法が熱く語られている、私のお薦めの一冊です。

7番 大和田 英樹

「大空に」 坂本 進著 集英社

この物語には本当に感動しました。この本は、一生に一度は誰もが経験するものは何かを教えてください。その何かとは読む人それぞれちがうと思うので、自分で感じとって下さい。

8番 小野 文枝

「リトルトリー」 フォレスト・カーター著

感動……(涙)。

9番 金澤 貞善

「NICE BOYS」 日之出出版

服のセンスもなかなかGood! アクセやコロンなども多少掲載している。特集もなかなかおもしろい。でもやっぱり Paul Smith の物が多数掲載してあるところが、一番のおすすめの理由。

10番 上村 友和

「脳内革命」 春山 茂雄著

これを読めばあなたも考え方が変わるだろう……。

(昨年のベストセラー)

11番 管野 裕之

「諸葛孔明(上)(下)」 陳 舜臣著

三国志の世界で、軍師として大変有名な諸葛孔明の様々なエピソードを含んだ本です。興味のある人は見てみてはいかがでしょうか。

12番 菊原 純一

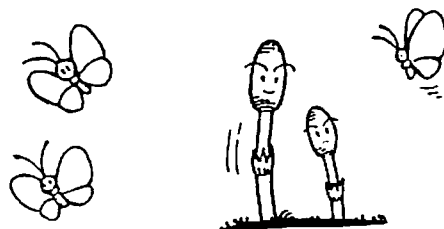
「鬼平犯科帳」 池波 正太郎著

TVシリーズの原作で、人情味があっという話です。

13番 草野 至朗

「松本」 松本 人志著

あのダウンタウンの松ちゃんが書いた「遺書」に続く第二弾「松本」。この本を読めば松本人志の腹の中がわかります。ぜひ読んでみて下さい。共感できる所が数多くあって、面白いです。



14番 小泉 広宣

「言霊 - ホツマ THE WORD SPIRIT」

鳥居 礼著 たま出版

言葉を発することによって、それを聞く、聞かないに関わらず物事に作用する言葉、「言霊」について書かれている本で、神道に興味のある方へはおすすめです。

15番 駒木根 文仁

「ノルウェイの森 上・下」 村上 春樹著

恋愛小説。この本で村上春樹を知りました。

16番 小室 博

「金田一耕助ファイルシリーズ」

横溝 正史著

昭和初期の猟奇的事件を鮮やかに解決する金田一のおじいちゃんの名推理にはまる。

17番 酒井 健太郎

「ホログラフィー～完全な映像を求めて～」

辻内 順平著

この本は、僕が卒業研究のテーマを決めるためにヤマニ書房の本店で定価1545円で購入したものである。しかし、それから半年後、研究室は解散し、半永久的に本棚で眠ることになった。内容？いや…知らない。

18番 佐久間 康

「死因」 バトリシア・コーンウェル著

この本は主人公が女性検死局長なので、殺人の証拠や死因などに対する科学的な説明が多く、おもしろいと思います。

19番 佐々木 利夫

「アメリカン・ジャーナル」

ビート・ハミル著 高見 浩訳 黒岩大光堂

アメリカのジャーナリスト ビート・ハミルの体験談を書いている。真実のアメリカに鋭く迫っている様子が興味をそそる。

20番 佐藤 耕士

「第四次元の小説～幻想数学短編集～」

R・A・ハインライン他著

メビウスの輪など、四次元的なものをテーマにしたお話の短編集です。図書館にあります。けっこうおもしろいと思います。

21番 鈴木 英子

「ホットゾーン上・下」

リチャード・アレクソン著 高見 浩訳 飛鳥新社

これはアメリカの陸軍にある微生物研究所内のホット（危険）な微生物を扱っている人々の話で、エボラウィルスが話の中心になっています。ノンフィクションなので、リアルにウィルスの恐怖が伝わります。

22番 鈴木 清則

「三毛猫ホームズシリーズ」 赤川 次郎著

個性的なキャラクターが登場するミステリー物のシリーズ。読み始めると本当に止まらない。中でもお薦めは推理とポルターガイスト。ためしに読んでみ。

24番 高橋 大輔

「ピアッシング」 村上 龍著 幻冬舎

殺人衝動をもつ男と自殺願望を持つ女が出会う物語。考えさせられる一冊。

25番 田子 昌行

「月の魔力」

A・L・リバー著 藤原 正彦・藤原 美子訳

東京書籍

魔力という単語に拒否反応を示す人がいるかもしれないが、これはそういった怪しげな本ではない。精神科医である著者は、この中で多くの実験で得たデータと共に、月齢が人間に、肉体的にも精神的にも様々な影響を与えると述べている。体調や精神が不安定な方、あなたには月の魔力が大きく関わっているのかもしれない。

26番 富岡 真弘

「ウォームアップ+スタディ」J・スタッフ著

金管楽器奏者の唇やその周りの筋肉及び息の筋力トレーニングのスペシャル教則本。トランペット吹きなら必ず読もう！！

27番 根内 千彰

「山口八十八伝」 帝国臓器出版

天下の帝国臓器製薬株式会社の創設者山口八十八氏の人生を事細かに書いてある価値のある一冊です。しかし非売品です。

28番 根本 智裕

「総合時刻表 '97 1」 弘済出版社

感動の超大作。一度読む価値はあります。

29番 橋本 広之

「電磁気学演習」

後藤 憲一・山崎 修一郎共編 共立出版

日系人留学生ロン・清一は、ラグビー部に所属する学生だ。ある日彼は、一冊の本と出会う。扉を開くとそこには奇怪な文字が並ぶ。果たして彼はこの謎を解くことができるのか。人類の血塗られた過去と貴方の忌まわしい記憶を呼び覚ます、恐怖でページをめくる手が凍り付く事必至！

30番 馬上 裕

「プラス・ドイツ語辞典」

信岡 資生編著 三修社

ドイツ語の単位がほしい方、ユルゲン先生とお友達になりたい方、ドイツ人になりたい方、この辞典を読めばドイツ語はペ〜ラペラ。怪しいドイツ料理の作り方も載っています。定価3,200円で好評発売中！！

31番 樋木 裕次郎

「聖書」いのちのことば社

あなたも「本の中の本」聖書を読んでみませんか？聖書を読み続けることによって、その言葉はあなたの血となり肉となるでしょう。前向き、肯定的な考動人でありたいですね。人生の教科書としてどうぞ。

32番 早川 博則

「トンデモ本の世界と学会」 洋泉社

著者の真面目な意図とは無関係にその人の無知、勘違いによってめちゃめちゃな内容になってしまった「トンデモ本」を徹底的に馬鹿にしている本。

33番 松本 加奈子

「ルンルンを買っておうちに帰ろう」

林 真理子著

悩みがある時に是非読んでみて下さい。とてもためになります。

34番 村上 俊幸

「競馬場の風来坊」 田原 成貴著

本の題名通り競馬に関する本ですが、競馬のことばかりでなく様々な話を書いてあり大変読みごたえのある本です。内容はそれほど難しくありません。

35番 目黒 忠靖

「変身」 カフカ著

難しいけどおもしろいです。ボクのコメントを読むより、本読んでくれ。

36番 元木 寛

「月刊サーフィンライフ」

これを読んでも、サーフィンについての知識が増えるだけでなく、自分の人生観、生き方なんかも考えさせられる。

37番 森 茂雄

「神々の指紋」 グラハム・ハンコック著

内容はおもしろいが難しい。信用できない部分もあるという本。

38番 箭内 政仁

「月刊バスケットボール」 日本文化出版

NBAの有名プレイヤーについて詳しく書いてあって、バスケット好きにはたまらない一冊。TVで見るNBA中継が百倍面白くなるはずだ。

39番 柳井 祐介

「人間だもの」 相田 みつを著

人間の忘れていたものを見つけられる、あたたかい一冊です。

40番 山田 寛章

「P」 木根 尚登著

ある中学校に転校してきたペンギンのお話です。これを読むと、いかに自分の生活がいい加減で無責任であるかがわかると思います。自分がいい加減な人間だと思う人、またはそのことにすら気が付いてない人、是非読んで下さい。

41番 吉田 真

「若者のすべて」

岡田 恵和著 ワニブックス

6人の仲間たちのものの考え方、友情などについて彼ら、彼女らの泣き笑いの中で描かれた作品。TVドラマを見た人も見てない人も一度読んでみよう。

42番 吉田 豊

「北斗の拳」 原 哲夫&武論尊著

あたたか あた（編集部注：元原稿にはこのあと拳マークが描いてあります。）

工業化学科

1番 會川 淳美

「眼球綺譚」 綾辻 行人著

七編の短編が収録された本です。ホラー小説が好きな人におすすめします。食欲がなくなるような話や後味の悪い終わり方をするものが嫌いな人にはすすめられません。

2番 安藤 美喜子

「マディソン郡の橋」 ロバート・ジェームズ著

映画より本の方がおもしろいと思います。

3番 五十嵐 健二

「病苦を乗り越える最後の天行力」

福永 法源著

「スプーンを曲げる前に人の曲がった根性をなおせ。」だそうです。

4番 五十嵐 啓明

「KYOKO」 村上 龍著

1人の女性が1人の男性を捜しにN.Y.を訪れた際、様々な人々と関わっていくのですが、その様々な人々の目に写り感じさせたKYOKOのキャラクターがいい感じですし、とても読みやすく、白色の表紙にサラッと銀色でKYOKOというタイトルと女性が描かれているのも、イノセントな感じを漂わせているのでいい感じがします。M.D.L.G.B.

5番 市川 景子

「哀しい予感」 吉本 ばなな著

読んだ後、不思議な気分になりました。

6番 遠藤 由美子

「パイナップリン」 吉本 ばなな著

エッセイ集ですが、著者の文章の上手さに感嘆します。

7番 大平 寛

「これで分かったプロレス技 上半身編・下半身編」 流 智美著

プロレス技を知るための教科書に最適。プロレスをあまり見ない人も楽しめます。プロレス技は友達をなくさない程度に使用しましょう。

8番 岡部 泉

「流転の星」 宮本 輝著

戦後の立て直しの中におけるある一家の葛藤を描いたもの。はやく完結編が見たい。

9番 小澤 大作

「GAMEST」 新声社

やはりアーケードゲームを楽しむためにはこの雑誌は最高だ。普通の人にはついていけないようなマニアックなネタが盛りだくさん。ゲーマーならばこの本を必ず読むべし。

10番 小野 由美子

「ダーク ハーフ」 スティーブ・キング著

この人の作品にしては短めで読みやすいです。でもキングが好きな人には外せないでしょう。キング入門編としても最適です。

11番 金成 千晶

「味な店 おつな店 いわき編」

月刊タウンマガジンいわき

どこに食べに行こうか迷った時、いわきの食どころが一目でわかるようになっているので便利です。

12番 木田 智則

「太陽と月と内田有紀」 ワニブックス

内田有紀の魅力がいっぱい。

13番 小島 信子

「リング」 鈴木 光司著

後味の悪い話です。実際にあったならとても怖い。読むのが面倒な人にはビデオにもなっているから見て下さい。続編の「らせん」も読みたくなると思う。

14番 酒井 友子

「沈黙」 遠藤 周作著

去年読んだ本の中で一番良かった。

15番 作山 亜矢子

「ぐりとぐら」 大村 百合子著

みているだけで、心があたたまるような本です。

16番 三瓶 勝

「ザ・フィットネス」 日武会

選ばれた人(住所を売られた人)にだけける特別の雑誌。D-ショックがただでもらえる。

17番 志賀 和枝
「弟」 石原 慎太郎著
石原裕次郎の人生がわかるこの一冊。ぜひ一度。

18番 志賀 順子
「つぐみ」 吉本 ばなな著
昔話題になった本をようやく読んだ。話題になるだけあっておもしろかった。

20番 菅原 正行
本は人にすすめられて読むものではないと思う。

21番 諏訪 里子
「KYOKO」 村上 龍著
：いい話
「カンガルー日和」
「ねじまき鳥クロニクル」村上 春樹著
：ちょっと変な話
「火車」 宮部 みゆき著：色々な意味で怖い話
「無影燈」 渡辺 淳一著：大人の話
どれもタイプは違うがおもしろい（と私は思う）。

22番 高木 亜希子
「マントラ」 マダ・ワケイ著
自分の生まれもった運命やこれから起こりうることを知ることができる本です。2001年までに起こる出来事を作者は予知しており、少しずれはあるが当たっていることにびっくりします。

23番 高橋 信子
「潮騒」 三島 由紀夫著
美しい情景が頭いっぱいにはたがる、静かな感動を生む本です。現実のあわただしさに埋もれている人におすすめ。

24番 田口 秀和
「ドグラ マグラ」 夢野 久作著
「脳髓とは考える所にあらず。細胞の一つ一つが物を考え、足をつねれば足がいたいのだ。」昔の人にも同じことを思ってる人もいたもんだと思った。

26番 西村 睦子
「一年遅れのウエディング・ベル」
戸沢 ひとみ著
一度でいいので読んでみて下さい。考えさせられる事があるはず…。

27番 箱崎 里枝
「あのこと」 さくら ももこ著
立ち読みしてたら、おもしろすぎて笑ってしまいました。さくらももこさんの他の本もおもしろいし、なかなか勉強になる(?)ので読んでみてね。

28番 長谷川 真弓
「ほの暗い水の底で」 鈴木 光司著
おもしろい!!

29番 蛭田 和典
「雲の階段 (上) (下)」 渡辺 淳一著
この本に限らず医師から作家になった渡辺淳一氏の本は読んでいてとても考えさせられます。

30番 福田 正博
「まほろば(準備号~二号)」RPG愛好会篇
「まほろば」は(私を含めた)RPG愛好会員に原稿を依頼し編集、発行を行ったRPG愛好会初の会誌です。私はその中で創刊、原稿、発行を担当しました。出来自体は大したことなく、別におすすりめという訳ではないのですがRPG愛好会が活発に活動している証としてこの場で紹介できる事をうれしく思います。

31番 星 直樹
「新・トロイア物語」 阿刀田 高著
最初、トロイアという言葉と和田誠さんの絵に魅せられて購入したが、内容はもっと良かった。トロイの木馬で有名なトロイア戦争。そこを舞台に英雄たちが活躍する熱い物語は読む人を飽きさせない。ここ数年で最高の物語であることは、読めばわかるはず。

32番 細谷 純子
「光射す海」 鈴木 光司著
この人の本はとてもおもしろく、この本以外のものもおもしろいと思うが、この本は知名度が低いと思うので、皆さん読んでみて下さい。

33番 穂積 大輔
「パラサイト・イヴ」 瀬名 秀明著
人間は細胞からできていることをあらためて思い出させてくれた。

34番 松浦 理恵
「KYOKO」 村上 龍著
幼い頃ダンスを教えてくれた、今は末期AIDS患者のキューバ人を探す日本人の女の子---Kyokoの話。高岡早紀主演で映画化もされたので是非観てみたい。
STOP AIDS!

35番 峯嶋 良彦
「トンデモ超変態系」ブレタ・ラガ 著
読んだことはない。

36番 矢萩 幸恵
「夜が明けたら」 小松 左京著
夜が明けなくなってしまうSF本。夜が来ると怖くなってしまった。短編集なのでさらさら読みました。

37番 矢吹 和弘
「週間少年サンデー」 小学館
今一番おもしろい週刊誌です。

38番 山崎 裕子
「処刑室」 ジョン・グリナム著
この本を読もうとする人は、かなり根性入れて読まないと感動は得られない。今、話題(?)の「評決のとき」という映画の原作者の本で、法律ものの本だが、この本ははっきり言って泣ける!!そして死刑について考えることになるだろう。

39番 山田 真理子
「24人のピリー・ミリガン」ダニエル・キス著
これは、ある多重人格者の実話なんだけど、読み始めると止まらなくなる。1人の人間の中に24人の人格がいて、その人達は性格の違いだけではなくて、年令も性別も、出身地まで違うんです。そんなことが本当にあるのだろうかと思う人は一度読んでみるといいと思います。

40番 吉田 寿江
「ここはグリーン・ウッド」 那州 雪絵著
剛鉄の面の皮をもつ寮長の光流先輩と皆に恐れられている生徒会長の忍先輩にからかわれ、同室で外見はほとんど女の子という瞬に

悩まされる蓮川(スカ)ちゃんの生活を描いたひたすら笑える作品。

41番 渡辺 雅子
「熱血ボンちゃんが行く」 山田 詠美著
すらすら読めておもしろい。

42番 マイ・フウン・バク
「ファインマン物理学 I, II & III」
ファインマン著
ファインマンは有名な物理学者でありながら、すばらしい物理学の先生でもある。彼の本(教科書)は古いが、内容が古くないし、わかりやすく、詳しいので勉強にとって最適。3年生の物理実験のレポートを書くときとても助かった。

土木工学科

2番 安積 伸二
「四万十川」
あつよし少年が、四万十川を通じて心身共に大人になっていく様を描いています。

4番 荒 さより
「ふたり」 唐沢 寿明著
とりあえず読んでみて。

5番 薄葉 理絵
「稲中卓球部」
ペーパーボー ペーパーポポー
(編集部 ???)

6番 太田 裕晴
「カモネギ白書」
ある人間の生きざまを書いた本。ギャンブルすきな人おすすめ。

7番 大和田 義光
「セブンイレブンファミリー」
これからセブンイレブンを作ろうという人におすすめのバイブル。

8番 加澤 裕美
「稲中卓球部」
だァ〜かァ〜らァ〜

9番 金成 修一

「蒼天航路」

事態の本質を掴めず、自分の欲得しか考えぬ無能な政治家どもと悪徳商人たちが、それに輪をかけて時代を悪くしてゆく。

10番 鎌田 崇

「Dr. NOGUCHI」

世界の野口英世の話である。とにかく感動。私は生きる目標を持たせてもらった。

11番 菅野 香子

「土木へのアプローチ」

この本は土木の専門的なことについて誰が読んでも理解できるように書いてある本です。土木について疑問に思ったことがあればこの本を見て参考にすると良いと思います。

12番 木村 紘輔

「最後の伝令」 筒井 康隆著

筒井康隆の独特の世界を堪能できる一冊。ただし全体の1/3は理解不可能です。

13番 木村 真梨江

「脳内革命」

最近読んだのはこれだけです。分かりやすくていいのでは？

14番 栗村 直樹

「鉄筋表」

これは本ではないが、あらゆる技術書の付表として載っている。設計に必要な鉄筋種類とその本数によって断面積や周長が即座に読みとれてしまう。作った人はそうとうヒマだったに違いない。

※注：建設環境工学科必修!!

15番 国分 貴志

「部屋においでよ」 原 秀則著

読んでね。

16番 小曾根 晃

「Sweet 三国志」

読みやすい三国志。1度読んでみましょう。

17番 小針 衣絵

「神々の指紋 上・下」

作者の考えについていけない時があるが、その発想の転換がおもしろい。

18番 小松 留美

「宇宙からの帰還」

たくさんの事例がそれぞれにおもしろい。

19番 近内 寿子

「行け! 稲中卓球部」

授業中に回し読みしてふきだす。

20番 坂井 信彦

「mos les (モス レス)」

モスバーガーのバイトしか読めない本。内容はヒミツ。

21番 坂本 英俊

「勝者の資格」

勝つために読む本。

22番 相楽 友幸

「サラリーマン金太郎」

族の頭だった金太郎がヤマト建設のサラリーマンとして活躍する。おもしろい。

23番 佐川 浩紀

「そして死刑は執行された」

元死刑囚の筆者が、刑務所内での懲役囚や死刑囚の生き様を書いている。一度読んでしばらくしてもう一度読むとまた違った見え方のする本だ。

24番 佐藤 和彦

「脳内革命」

現役の医者が筆者で、人生プラス思考だと頭がよくなるという話。読みやすい。

25番 佐藤 健一

「5分後の世界」

現在にいたる道がほんの少しずれたなら、こんな世界だったかもしれません。

26番 佐藤 崇

「風の歌を聴け」 村上 春樹著

おもしろかったです。

27番 澤山 佳江

「non-no」

最近の流行の服や女の子の悩みである体形のことなどタメになる情報満載!! 必見です。

28番 箱崎 美晴
「ビジネスマンの父から息子への30通の手紙」
これから社会へ出る私達に良いアドバイスを与えてくれる本です。

29番 鈴木 亨
「猿岩石裏日記」
この本は、電波少年では放送されなかったディレクターの話まで書いてあり、けっこう笑える一冊です。

30番 鈴木 春香
「脳内革命」
125年生きなければ見てみることをすすめる。ちょっとアルツハイマーがかった人にもおすすめ。

31番 瀬戸 隆寿
「輪・輪・人生」
誰にも相手にされない競輪好きの少年がいつしか選手をめざし、そしてレースで散る感動の一冊。

32番 丹野 充
「酸化物超電導体とその応用」
たくましい。

33番 千葉 尚
「シュート」

34番 中村 めぐみ
「ノストラダムス大予言の秘密」
この本によるとノストラダムスの予言はそんなに当たってないらしい。あげくの果てには「そんなことどうでもいい」とまでのたまっている。実におもしろい本だ。

35番 野沢 康範
「こらっ」 中島 らも著
著者のアイロニックなところがよいです。

36番 芳賀 敏博
「オプション2」
これからチューニングカーを乗りたい人、今乗っている車をチューンしたい人におすすめの本です。専門用語も少なくわかりやすいよ!!

37番 舟木 理
「ミスターバイクさん」
バイクに乗るバイクさんの夢と希望のファンタジー。とても熱く濃いひげである。

38番 松園 千加子
「こんなに長い幸福の不在」 銀色 夏生著
いい。

39番 水梨 康之
「ギャンブルレーサー」
とりあえずよめ。

40番 矢萩 俊之
「土木計画学」
毛利正光、西村昴、本多義明共著 国民科学社
理論と実際。

41番 矢吹 大樹
「脳内革命」
読めばわかる。

43番 吉田 英二
「サラブレ」
競馬ファン必見。注目の馬、レースの予測等特集数多い。また”ダビスタ中毒者（ジャンキー）”のバイブル。

44番 吉田 道一
「Dear フレンズ」
女性版のスタンド バイ ミーみたいな感じで気軽に読める一冊です。

45番 渡邊 知也
「神々の指紋」
昔のことがよくわかる。



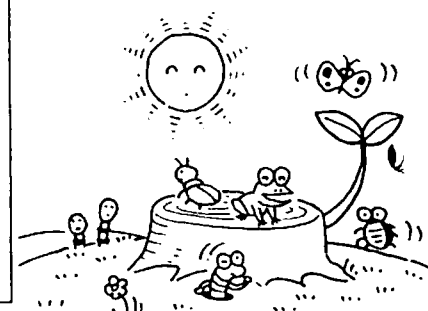
図書館便り

☆学年学科別図書帯出冊数（平成8年4月～12月）

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	32	141	316	198	220	907
電気工学科	73	135	439	213	386	1246
物質工学科	65					1579
工業化学科		355	471	417	271	
建設環境工学科	91	159				912
土木工学科			141	214	307	
コミ情報学科	24	155	176			355
計	285	945	1543	1042	1184	4999

☆ 個人別貸出冊数ベスト10（平成8年4月～12月）

1	遠藤 健太郎	（電気工学科3年）	102冊
2	村山 英司	（工業化学科2年）	96冊
3	磯上 幹夫	（建設環境工学科2年）	63冊
4	佐藤 健一	（土木工学科5年）	56冊
5	諏訪 里子	（工業化学科5年）	43冊
6	檀木 裕次郎	（電気工学科5年）	41冊
〃	中澤 歩	（工業化学科4年）	41冊
〃	沢田 拓巳	（工業化学科3年）	41冊
9	菅波 有人	（工業化学科4年）	39冊
10	服部 一真	（工業化学科4年）	37冊
〃	服部 直明	（工業化学科3年）	37冊



☆感想文コンクール応募作品

今回第2回目の感想文コンクールへの応募は以下の5点でした。

〔高学年の部〕

- ・「エイズと闘った少年の記録」を読んで 電気工学科 4年 高橋 亜維
- ・スタインバック短編集より「菊」を読んで 土木工学科 5年 小松 留美

〔低学年の部〕

- ・「春琴抄」（谷崎潤一郎著）を読んで コミ情報学科 3年 大島 優佳
- ・未来いそっぶ「ある商品」（星新一）を読んで コミ情報学科 3年 大和田 輝枝
- ・「おみやげ」（星新一）を読んで コミ情報学科 3年 箱崎 沙織

お 知 ら せ

★★ 学年末休業特別貸出について★★

下記の通り実施します

特別貸出開始・・・平成 9年3月 3日(月)
貸出限度冊数・・・1人5冊まで
返却期限・・・平成 9年4月11日(金)

○現在帯出している図書で引続き必要な場合は、カウンターで継続手続きを行って下さい。また、1人で長期間独占しないよう期日には必ず返却して下さい。

学年末休業期間中

平成9年3月11日(火)～平成9年4月7日(月)

は、閉館いたします。

★★ 5年生全員へのお知らせ★★

帯出図書・卒業研究用帯出図書を
2月21日(金)までに
返却して下さい。

○期日までに返納できない場合は、その旨を図書係に連絡して下さい。なお、連絡がないときは、保護者あるいは保証人宛に督促状を発送する予定です。

図書館長



平成8年度図書委員会



図書館長 井上 和人 (工業化学科)
 副館長 (ビブリア担当) 大槻 正伸 (電気工学科)

委員 八木 康雄 (機械工学科) 村田 進 (電気工学科)
 小林 靖明 (物質工学科) 高橋 邦雄 (建設環境工学科)
 布施 雅彦 (コミュニケーション情報学科) 大森 房子 (一般教科)

赤松 一良 (庶務課長) 黒田 祐一 (図書係長)
 大谷 敦子 (司書) 薄井 久美子 (図書係)

学生図書委員

5 M 森 俊介	5 E *山田 寛章 *村上 俊幸	5 C 酒井 友子 吉田 寿江	5 土 大和田 義光 瀬戸 隆寿
4 M 早川 幸恵 蛭田 貴弘	4 E 大高 裕幸 小松 敦史	4 C 椎名 議子 *中澤 歩	4 土 澁谷 健二
3 M 清水 正彦 渡邊 信也	3 E 渡辺 純一 渡辺 剛史	3 C 江尻 昌弘 佐竹 慎人	3 土 藤田 理恵 榎田 澄恵
3 コ *大島 優佳 *小関 祥子			
2 M 小松 努 佐藤 直樹	2 E *斎藤 優弥 広川 出海	2 C 佐久 間武志 村山 英司	2 建 磯上 幹夫
2 コ 坂本 典子 鯨岡 玲子			
1 M *菅野 禎司 *永井 善将	1 E 大谷 正幸 斎藤 泉	1 物 遠藤 美緒 吉田 万里子	1 建 宗形 和洋 渡辺 真規子
1 コ 森田 千絵 山岸 幸			

(*はビブリア編集委員)

編集後記

今年も学年末休業前にビブリアをお届けします。「今年は何なことを企画しようか。(卒業生の『私の推す一冊』もワンパターンか。)」と思って、5年生の図書委員と一緒にどんな企画がいかを話し合いました。

そのとき、図書委員のひとりY君は「私は、卒業間際にこれが書きたくて、それが楽しみで5年間生きてきたんです。」というのです。

少しオーバーでもうれしいですね。ということで今年も、「卒業生による『私の推す一冊。』」をやりました。中には「本なんか読んでいないから、面倒だ。」とかいう人もいたかもしれませんが。(そんな人は自分の生活習慣を見直しましょうね。)

なお、編集作業の時間の都合で、病気で休んだりして図書委員の原稿集めの締切りに間に合わなかった人の分は残念ながら掲載できませんでした。御了承下さい。

それにしても、これを見ると確かに面白そうで、是非読んでみたいと思う本もたくさんあります。春休みにはビブリアを参考に、なにか数冊本を読んでみてはいかがでしょうか。